

令和元年度1月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和2年1月7日（火）午後2時00分～2時35分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ11社

会見内容

1. はじめに（1項目）

- 記者の皆さま、新年あけましておめでとうございます。
新年を迎えて最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 昨年は、3月に阿寒湖アイヌシアター「イコロ」において、アイヌの古式舞踊と現代舞踊、デジタルアートの融合による阿寒ユーカラ「ロストカムイ」の上演が始まり、7月には光や映像、音響による幻想的な夜の森を冒険しながら 自然との共生の大切さを伝えるアイヌの物語を体感するアトラクション「阿寒湖の森ナイトウォーク『カムイルミナ』」が国内で唯一、国立公園内に設置されました。
いずれも国内外の多くの皆様から好評をいただき、釧路市が持つ豊かな自然や文化への注目がさらに高まる一年となりました。
- 10月には、釧路市動物園と飼育動物に関する学術交流を行っている台北市立動物園の新タンチョウ舎完成記念式典への参加や、併せて同動物園へ国外へは初めてとなる天然マリモの貸与を行い、展示を開始しているところであります。
今年、北陽高等学校の修学旅行で台湾を訪問する予定であり、今後の台湾とのさらなる交流について、これらの若い世代も含み、期待しているところであります。
- また、昨年末のアイスホッケー競技から始まり、本日がスピード・フィギュアスケート競技の最終日となっている、第92回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）が5年ぶりに釧路で開催されたということがあります。
- 昨年を振り返った中では、各地で地震や大雨、台風といった災害が発生しているということでもあります。市長会・町村会も含めて、国土強靱化に向け、様々な要請をしているところであり、このような取り組みをしっかりと進めているところであります。現在、北海道におきましても、北海道強靱化計画の改定作業を進めているところで、私どもも、こちらの内容を踏まえながら、しっかりと進めていきたいと思っております。
- 本年は、「東京オリンピック・パラリンピック」の開催年であります。
釧路では、6月14日（日）に釧路市役所から釧路川ふれあい広場まで行われる「東京2020オリンピック聖火リレー」を、市民の皆さんと共に盛り上げていきたいと思っております。
- 東京パラリンピックの関係では、昨年もベトナムの選手の皆さんが釧路で合宿しており、今年もパラ・パワーリフティングやパラ陸上競技の事前合宿に当市に入ってくるということでもありますので、こちらにつきましてもしっかりと環境を整え、市民の皆さんと応援し、出場選手のメダル獲得に期待したいと思っております。

- 市政におきましては、人口減少に伴う様々な課題にしっかりと対峙しながら進めていくということで、「第2期 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向け、準備を進めているところであります。
- 様々な出来事がある中で、市民生活をしっかりと維持し、さらにプラス成長を目指すという都市経営の理念を出していきながら、今年もしっかりとがんばっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

2. 話題提供（1項目）

1. 釧路市立高等看護学院の新校舎の竣工について

- 最初に、釧路市立高等看護学院の新校舎の竣工についてです。
- 高等看護学院は、看護師を育成する教育機関として、これまで多くの優秀な人材を輩出してきております。しっかりとした学習環境の充実を図ることを目的とし、改築工事を行ってまいりました。
- 改築中の高等看護学院は、2018年（平成30年）の工事着手以来、順調に進んでおり、来月2月14日（金）に竣工、引渡しという形となっております。
- 新校舎の延べ床面積は、旧校舎の約1.6倍の広さとなり、学習環境の整備として、座学の後に、直ぐに実技練習ができるよう「実習室」を同じフロアに設置や、各学生の学習の場として「学習室」や「図書室」の拡充を行いました。他には、「体育館」を校舎の5階に設置したレイアウトとなっております。
- 新校舎の引渡し後につきましては、学生に支障がかからないよう休校日を利用し、速やかに新校舎への引越しを予定しており、現在の3年生である第33期生の卒業式については、3月9日（月）午後1時30分から、新校舎の体育館（5階）で行う予定となっております。
- 当学院の卒業生は、看護師の国家試験において、直近3年間で合格率100%と極めて高い率を維持しております。
- さらに、これらの環境を整えていくことで、地域の中で重要な医療人材をしっかりと育てていけるよう、これからも取り組んでいきたいと考えております。

3. その他（1項目）

1. 「SL冬の湿原号」20周年について

- 続いて、「SL冬の湿原号」20周年についてです。
- 今年も「SL冬の湿原号」が、1月25日（土）から3月1日（日）の期間に、釧路一標茶間を1日1往復、22日間運行いたします。
- 「SL冬の湿原号」は、2000年（平成12年）に運行を開始し、今年で20年目を迎えるということで、こちらを盛り上げていこうということでもあります。

- 20周年記念事業といたしましては、「SLトレーディングカード」を作成し、「自治体PRデー」で車内販売をするほか、例年実施しております「出発式」に加え、3月1日（日）の運行最終日にもイベントを実施するということとなります。
- JR北海道、釧路総合振興局、釧路観光連盟および沿線自治体と連携し、このたびの20周年の運行を盛り上げていこうと考えております。

4. 質疑要旨

(質問)

- ・ 高等看護学院について、引き渡し・完成式のような式典を予定しておりますでしょうか。

(高等看護学院学務課長)

- ・ 現在、式典と内覧会を予定しており、関係機関と協議をしているところです。2月14日から3月までの間を予定しており、日程が確定いたしましたら、改めてお知らせをしたいと考えております。

(質問)

- ・ 「SL冬の湿原号」について、3月1日の最終日のイベントは、どのようなものを予定しているのでしょうか。

(観光振興室室長補佐)

- ・ 現在、予定しております内容は、標茶駅構内のコンコースで、観光PRパンフレットの配布とノベルティの配布となっております。それに加えて各自治体の着ぐるみでおもてなしをする予定です。

(質問)

- ・ 昨年末、各自治体で宿泊税をどのようにしていくといった話題があり、釧路市としても宿泊税を検討されているということですが、どのような方法で進めていくお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 今週10日に北海道による説明会が開催される予定となっております。そこで、どのようなことが出てくるかと思っております。

宿泊税ということになりますと、対象等が色々と変わってくると思っております。私どもは、入湯税の嵩上げを行っているところで、ここも基準等がどのようなところを対象となるかの確認を、今、進めているところであります。

このような諸々の整理が必要となってきますので、北海道としてどのような形で進めていくのかを、具体的に示していただきたいということで、その説明会にも参加をし、情報を収集するという状況であります。

(質問)

- ・ 10日の説明会は、北海道が主催して行うものですか。

(市長)

- ・ 北海道の主催となっております。会場は札幌で、宿泊税に関する考え方を説明する内容となっております。昨年12月に道議会で用いた資料が当市にも来ておりまして、その内容についての説明を行うことになっており、当市からは観光振興監が出席を予定しております。

(質問)

- ・ 宿泊税について、北海道の説明を聞いて考えていくということですが、釧路市として具体的に導入する・しないの判断をしようとする時に、他都市のように有識者会議を設置して、意見を貰った上で判断していくことになるのか、制度設計の情報を集めながら市役所内の議論で導入の是非について判断することになるのか、どのような流れで進めていくのでしょうか。

(市長)

- ・ 他の自治体について熟知している訳ではないのですが、北海道では、どのような形の宿泊税をもってくるのかということであり、そこについて各自治体で考え方が違ってくるのではないかとことがあります。

私どもとしては、先程もお話をしましたとおり、入湯税の嵩上げを行っており、当然、そことの関係が出てきます。これらの意味合いからも、まず、北海道のしっかりとしたスキームが示されることが必要であることから、当市も確認、調整しながら進めている状況です。

(質問)

- ・ 新年度予算の関係で、特に、水産関連の振興では、昨年、サンマが非常に不漁であったこともあり、市としては近年豊漁のイワシの需要促進の取り組みを行ってきたと思います。今後、さらに魚種転換も含め、市の支援としての取り組みを予算の中であらわすことは、何か考えておりますか。

(市長)

- ・ これまでも、未利用・低利用の漁獲資源をしっかりと活用していき、併せて、たくさん獲れている魚種に付加価値を付けていく取り組みを行っており、これからも続けていく形になると思っております。

その中で、イワシの方に大きくシフトする形で、民間の方も動きが出てきております。ミール工場やそれに伴う施設を確保しながら行っていくといった動きがありますので、それらとも連携を取りながら進めていくものと考えております。

今は、魚種に対してというより、これからの衛生管理の部分について色々と言請もあり、取り組んでいかなければならないと思っておりますので、これらを具体的に進めていこうと、色々相談をしているところです。水産関連につきましては、このような形で業界の皆さんが動くことと我々がタッグを組むという形で、進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 衛生管理というものは、具体的にどのようなイメージのものですか。

(市長)

- ・ やはり、魚揚場の問題です。衛生管理と安全性ということで、具体の相談をしているところです。

(質問)

- ・ 市の管理している魚揚場施設の設備面ということになるのでしょうか。

(市長)

- ・ はい、設備の関係です。衛生管理をしっかりと行っていくためのものです。基本として、屋根が付いている衛生管理型の漁港といったものもありますので、様々な社会情勢を踏まえ、併せて、現実的な作業の安全性等を踏まえた対応は、行政側が行っていくことと位置付けております。

(質問)

- ・ 年頭の市長のご挨拶の時に、市の職員、特に若手の職員の育成・研修プログラムの構築について考えていくということをおっしゃってありました。近く、発表できるものから出していくということでしたが、4月から新年度が始まりますし、具体的にどのようなことを新しい取り組みとして考えているのかお聞きしたい。

(市長)

- ・ 市役所の中で、新採用職員をどのように一人の人として育てあげ、スキルアップさせていくのかということを考え、逆に言うとそのようなプログラムや仕組みがこれまで無い状況であったことから、私が市役所内部に投げかけていたところ

です。
そこで、昨年、新年度に向けて構築していこうと、全体的にも統一の意思になり、今年、どのようになっているのかということは、まだ来ておりませんが、しっかりと進めていくためにということで、年頭の挨拶の中でお話をさせていただいたところであります。

私は、これからの釧路市の中で、市役所が行政組織の中では一番市民にとって大切な組織であると一貫して言ってきたところです。当然、市に新採用で入ってくる職員の方々も、公の仕事、この地域での仕事という思いを持って来ており、そこで、どのようなことを学びながら進めていくのかということです。私が言っているのは、例えば、2年間や3年間の中で、色々な部署を回っていくような仕組みで、全部を見ることができた方がいいのではないかという話をしております。今は、始めからどこかの部署に入っております。市役所の仕事には、このような部署があるなど色々な部署を見ていく中で、自分なりにどのように思うかということです。これらを見ていきながら、政策的に色々なことを行う部署に進んでいきたい、市民と関わる業務の部署に進みたいなど、色々な人がおりますから、市役所に入った職員が、これから20年、30年と働いていく中で、この市を担っていく人材という希望を込めながら進めていくプログラムは必要であると私が話したことを意識した形で、作業を進めております。

採用の募集時に、そのようなプログラムがある自治体と無い自治体があるものですから、我々も早く出していかなければいけないと思っております。そのようになりますと、来年の夏の試験、再来年の採用に向けて、どのようなことをその自治体に入った後に行っていくのかということが、人材の確保、受験の動機に繋がってくるのではないかという話をしております。

(質問)

- ・ I Rの関係について、北海道が第一弾の誘致について手を下ろしたということがあり、現在は、毎日のように報道されているI R誘致に係る贈収賄の疑いのある事案が出てきています。

第一弾のI R整備について、政府は影響ないと説明しておりますが、釧路市としては、阿寒湖畔への誘致について手を下ろした訳ではなく、この地域の目指す地方型I Rを、第2弾以降で手を挙げていくことができればというお考えを示しておられます。今般の贈収賄問題の関連で、I R整備に関して影響が出るかもしれないと思いますが、釧路市としてI R整備の誘致にどのような影響があると受けとめていらっしゃるのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 中国企業の方々というところが、よくわからないところでもあります。私はI R誘致の中で、何度かオペレーターの方々との集まりに出席しておりまして、その

時には中国の方はおりませんでした。オペレーターの方々は世界中から集まって来て、私はその中で釧路でのローカル型 I R についての P R をしてきました。ヨーロッパの方々とのお会合に行った際にも、我々や道内からは苫小牧市や留寿都村が出席しており、オペレーターの方々ともお話をしてきたところでもあります。その時には、私がいまいちわからなかったのかもしれませんが、中国系の企業の方は全くおりませんでしたので、どこであのようになったのか全く見当がつかない状況でした。

基本的に、資本側が何かをするのではなくて、オペレーターという機能の中心となる方々のノウハウがあってという認識をしておりましたので、その中でも中国の資本が入っているのかもしれませんが、今、このような展開になっているのは、どうしてなのだろうということが率直な気持ちです。

その上で、何度もお話をしておりますが、煌びやかな都市型の I R というものを、私たちは始めからお話をしていたのではありません。例えば、フランスもローカル型 I R を進め、その中でしっかりとした運営が整備され、後に都市型 I R を進めてきたということがあります。

このようなことで要請をしてきたのですが、国が都市型の I R をまずスタートするというものでありましたので、それであれば私たちが言ってきたものとは違いますから、北海道にとっての誘致がプラスになるという苫小牧市をバックアップしていきますとお話をしてきました。これからどのような動きになっていくかは、私どもには皆目見当がつかないところではありますが、私たちはこれらの動きや流れをしっかりと見ていながら考えていきたいと思っております。